はじめに

なんとなく暖かい日が続き、今年も大雪になるという噂は本当かと訝しく思っていた矢先の先週末、今年度も本格的に雪が降り始めました。一気に積もっていく姿に、やっぱり利賀の冬は侮れないと気持ちを新たに引き締めている今日この頃です。

さて、留学生は今月頭、新型コロナウイルスの影響で１週間のオンライン授業を余儀なくされました。「いつから学校に行ける？」「ちょっと近くを走って来て良い？」と元気を持て余す子どもたち。もどかしい様子でオンライン授業に参加する日々でしたが、部屋を秘密基地のように模様替えしたり、寒空の中散歩に出かけていったりと、楽しみを探し続ける子どもたちの逞しさを改めて感じられる機会にもなりました。療養していた子どもたちもこの週末には全員が揃い、雪遊びや誕生日会、年末の大掃除の活動をめいっぱい行いました。賑やかに食事や入浴をし、学校にもまた皆で通う姿を見て、私自身、ここで集って過ごせることの楽しさとありがたさを改めて噛みしめているところです。この間、受け入れ家庭の皆様をはじめ地域の皆様、学校の先生方、保護者の皆様にはたくさんのご心配とご配慮をいただき、ありがとうございました。

年の瀬が迫り、子どもたちは冬休みを迎えます。実家でゆっくりと過ごし、１年間の集大成となる３学期に向けて意欲を蓄え、また元気な姿で利賀へ帰って来てもらいたいと思います。

皆様、良いお年をお迎えください。

松浦 実穂

【 活動カレンダー 】

１２月

１日　センター入り
３日　個人体験活動、畑作業
４日　個人体験活動
１０日　ホームステイ入り
１６日　センター入り
１７日　雪遊び、誕生日会
１８日　大掃除
２２日　帰省

〒939-2516
富山県南砺市利賀村坂上 18　南砺利賀みらい留学センター
TEL：0763-77-4103　　FAX ： 0763-77-4037
MAIL：nanto-toga-mirai@p1.tst.ne.jp
WEB：http://www.nanto-toga.com/

～ 雑草のようにたくましく ～

１２/３　収穫・片付け

今季最後の収獲と片付けをしました。今季は種まきが遅れてしまったため全体的に小粒だったものの、カブや赤かぶ、大根、ヤーコン、小松菜やほうれん草を「もったいないから全部採ろう！」と丁寧に収穫していました。収穫が終わったら、マルチをはがし、きれいに畑を整えて、冬を迎える準備。これで、春の雪解けから行ってきた今年度の畑作業は、無事に終了となりました。

12／4　保存食作り

利賀村でよく作られている赤かぶ漬けの体験を行いました。10kg ほどの赤かぶを洗って皮を剥き、塩と一緒に漬け込みました。ナイフで皮を剥く作業に苦戦する人もいましたが、「やっと一個剥けた！」「僕が塩入れたい！」と一つ一つの作業に前向きに取り組み、協力して順調に終えることができました。空いた時間には干し柿を柔らかく揉んで甘味を出す作業も行いました。厳しい冬を豊かに乗り越える食文化の智恵を体験することができました。

12／4・5　体験留学の様子

体験留学に 3 人の子どもたちが参加し、4 日の午後に行った保存食作りで一緒に活動しました。前半、赤かぶの下処理では、皮むきに苦戦しながら担当分を終わらせました。後半、干し柿の作業を終えると味見をして「甘いね」などと味わっていました。

翌日は村内をバスで見学。空き時間にはトランプやバドミントンをして、留学生との交流を楽しんでいました。

12／17　雪遊び

たくさんの降雪があったため、高峰山へ向かう林道へ雪遊びに行きました。今シーズン最初の雪遊びということで、留学生たちは「早くいこう！」「ソリ積んだ？」と出発前から盛り上がりをみせていました。

ソリ滑りや雪だるま作り、雪合戦など全員が思い思いの遊びを楽しみました。

12／17　誕生日会

夏休みから２学期中に誕生日を迎えた人を祝う誕生日会を開催しました。希望者で企画を考え、当日に向かって全員で少しずつ準備を進めていきました。

当日は午後から夕食作りや会場準備を行いました。夕食後には恒例の誕生日カードのプレゼントがありました。片付けを終えると、夜の部ということでみんなでオリジナルゲーム「数検衰弱」「スキーウェア早着雑巾がけレース」「全館かくれんぼ」を楽しみました。

コロナの流行もあり、準備が遅れてしまいましたが、結果的にはみんなに楽しんでもらえたのでよかったです。一学期にはできないようなスキーウェア早着＆雑巾がけ勝負が楽しかったです、上位にはなれなかったけど…。中学生は大人の勝負を見ているのが楽しかったそうです！

（　自称　：　２学期誕生日会　実行委員長　芽生　）

12／18　大掃除

今年最後の活動となる大掃除を行いました。それぞれの担当場所に分かれ、いつもの掃除では手の届かない窓ふきや、排水口掃除、床の傷落としなどを進めました。「この汚れにはこのスポンジがいいよ」「ここ時間かかりそうだね、手伝おうか？」など、みんなで協力する姿が見られました。窓の外には雪が降る寒さの中でしたが、約５時間集中して大掃除に取り組むことが出来ました。センターがきれいになり、気持ちよく新年を迎える準備ができました。

くま爺のつぶやき・・・

この冬一番の寒波がやってきた。初雪が遅かったので油断していたらあっという間に冬本番、心も体も対応できずにとまどっている。畑のカブやネギを収穫し、資材の片付けも何とか間に合った。センター周辺の桜の若木や幼木の雪囲いも昨年 11 月に教えていただいたので自分たちでできた。雪対策といえば、10 月下旬に坂上地区公民館の雪囲い作業（雪囲いを新調する作業と同時に行う）に参加した時のことを思い出す。大人二十数名で板を切り、組み立て作業をしていると地元の子どもたちがお手伝いにやってきた。ホームスティ期間中の山村留学生も参加、切る材料の寸法を測る子、切った板を運び並べる子、切り口に防腐剤を塗る子、出来上がりを窓のそばに運ぶ子など大活躍。みんなきびきびと動いていた。「子どもらがいたから早く終わった、助かったよ」と嬉しい言葉をいただいた。地域の方みんなが家族のように接していた。利賀村の魅力をまたひとつ発見した。

統括主幹　山本光則

保護者だより

『僕は、いつになったら山村留学に行けるの？』去年の秋のこと。コロナ禍で延期にしていた山村留学。この翠の一言で去年の今頃は留学に向けての手続きや買い物に走り回っていた事を思い出す。幸運にも利賀村に来る事ができ早くも冬を迎えている。

センターや学校の HP に映る翠はいつも楽しそう。羨ましい。畑作業、山菜採り、田植え、登山、川遊び、稲刈り…地元ではなかなかできない経験をしている事を本人は本当に理解しているのだろうか。リゾート気分で楽しんでいるだけ？

夏休みを終えてセンターに送り届ける道中、『早く利賀に帰りたい。やらないといけない事が沢山ある。』とイヤそうな顔をしながらもウキウキしている。収穫祭での太鼓。お披露目した後のやり切った満足気な表情。なんだそれ！
羨ましいじゃないか。

こんな経験を出来る機会に出会えた縁、留学生を温かく受け入れて下さっている利賀村の方々に感謝しつつ、これからの本格的な雪の季節を楽しむ子ども達の姿を、羨ましい！と呟きながらまた HP でチェックしてしまうのだろう。

日陽は現在中学 3 年生です。山村留学をするにあたって、中学 3 年間を親元を離れることになるというところまで考えた上での決断ではありませんでした。

山村留学をしよう、となったきっかけは、通っていた小学校の学区から中学は別の学区になってしまうため、同じ学校に行く友だちがいない、越境通学を申請する？それとも全然違うところに行ってみる？というような会話から始まりました。母の私は社会人になってから様々なところを旅行したりたくさんの人と出会う中で、もっと若い頃に経験していたら、と思う機会がたくさんありました。そのため自分の子どもには、望むなら経験は色々とさせたいという思いがあり、チャレンジしたいという日陽の気持ちを嬉しく思いました。また、日陽の嫌なことを避けがちだったり、サボり癖も気になっていたので、子どもたちが少人数で学校や地域の方々に見守ってもらえる環境が適しているのではないかという思いもありました。

3 年間も山村留学を経験した日陽はどう成長、変化したでしょうか。人数が少ない分、ひとりひとりの行動の責任が大きい環境で過ごす中で、良くない癖は改善されていると良いなと思います。また、農作業や個人体験などを通して、現在は食に関することに興味を持っているようです。
食に関わる学習の出来る学校への進学を目指し高校は東京の親元に戻ってくる予定です。戻ってきてこれまでの 3 年間の経験がどう活かされるのか、これからを楽しみにしているところです。